

ビオトープだより第65号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 紙芝居『ホタルのひかる君とおじいさんの物語』

総務委員長・主席 BA 梶岡 幹生

自然と共生する大切さを伝える紙芝居『ホタルのひかる君とおじいさんの物語』を作成して、幼稚園や小学校などで読み聞かせを行っています。

上演後には、みんなで声を揃えて「川にゴミをすてません」「生き物を大切にします」など、ホタルさんとのお約束をしています。この紙芝居をきっかけに少しでも『生き物や自然を大切にする心』が育めるよう願っております。



（80）同社の中川ゆかりさん（49）と学校に出向いた。4人で登場するキャラクターを分拍。ホタル探しの旅に出かけたおじいさんが、仲間とホタルの里づくりに奮闘する様子を、拍子木なども使って情感たっぷりに読み上げた。

梶岡さんは約20年前から呉市などでホタルの里づくりに注力してきた。子どもたちに環境保全への意識を高めてもらおうと8月、紙芝居を完成させた。三宅隆太さん（9）は「ホタルを増やすことができることを知って驚いた。環境を守るために何ができるかを考えた」と語った。（開沼位喜）



幼稚園での上演の様子

概要版



夜になるとホタルがふわりふわりと舞っています。その美しさに感嘆の声を上げる人たちの中にホタルの大好きなホタル爺さんがいました。



5年前、おじいさんはホタルを探しに山の中へ。蚊帳の中にホタルを入れて楽しんでいた昔を思い出しながら歩いていたら、足を踏み外して転がり、気を失ってしまいました。



おじいさんに声をかけて助けてくれたのはホタルのひかる君。「ここはホタルの郷です」



「昔は豊かな自然に囲まれて棲みやすかったけど、今は棲めるところが無くなってしまいました。」



「川が汚れて、たくさんのホタルが死んでしまいました… どんどん棲めるところが無くなって、ぼくたちはふるさを追われてしまいました。」



「どうすれば、君たちホタルが安心して棲めるんだろう？ ひかる君、君たちホタルの事を教えてくれるかな？」



ひかる君の話聞いたおじいさんは、8人の仲間と学校、地域の協力でホタルの棲む環境づくりをしました。



そして5年後、ひかる君の仲間もたくさん増えました。おじいさんは「これからも棲みよい環境を守っていくからね。」とホタルの光をいつまでもみていました。

2026年6月12日、13日 ビオトープフォーラム in 広島 2026
ご参加をお待ちしております！